WEB 版
# わすれなぐさ
菊陽町図書館 少女雑誌の部屋だより
VOL.45 2023年12月 DECEMBER（師走）

## 少女雑誌の部屋から

少女雑誌の部屋では、少女雑誌や児童雑誌などで挿絵画家として活躍した鈴木悦郎の生誕 100 年を記念して、企画展「鈴木悦郎展」を開催いたします。（令和 5 年 12 月 6 日～）今回は、悦郎が手掛けた雑誌の目次絵、イラストのほか、付録や絵本などを展示いたします。ちょっとしたカットやレタリングされた文字などもデザイン的に素晴らしく、なつかしさの中にも新しさを感じます。手描きでありながら、現在のグラフィックデザインと比べてみても遜色ないものばかりで、そのセンスの良さに嫉妬してしまうほど！もっと多くの方に知っていただきたいというのが個人的な願いでもあります。ぜひこの機会にご覧くださいね。

## 鈴木悦郎 Suzuki Etsuro

1923-2013

1 月 20 日東京・浅草生まれ。本名は一郎。
15 歳の時に中原淳一のもとを訪ねたことが縁で、淳一グッズの店「ヒマワリ」で店番を 1 年ほど務めた。昭和 16（1941）年、東宝舞台に入社。東京宝塚劇場の舞台芸術の仕事を経て挿絵画家となる。昭和 21（1946）年、『少女の友』で「鈴木越郎」のペンネームで初めて挿絵を描く。婦人雑誌『ソレイユ』では本名の「鈴木一郎」で描いた。昭和 22（1947）年には『ひまわり』創刊号でカットを担当。挿絵画家の仕事に本格的に取り組むために東宝舞台を辞職。
松本かつぢの紹介で少女雑誌の仕事も増えていく。かつぢの命名でペンネームを「鈴木悦郎」とする。
昭和 25（1950）年、猪熊弦一郎絵画研究所でデッサンなどの絵画の基礎を学ぶ。その後は絵本、装幀、雑貨デザイン、バレエ美術等幅広い分野で活躍した。

### 雑貨のデザイン

レターセットやシールなどの文房具のほか、包装紙や器、テキスタイルデザインの分野でもセンスを発揮した悦郎。モチーフにはフルーツや動物、植物などが可愛らしいフォルムで描かれ、日々の暮らしをたのしく美しく彩りました。

### バレエのお仕事

昭和 27 年頃からはバレエ公演の衣装や美術監督、ポスターやパンフレットなども数多く手掛けました。バレエの絵を描くために、自らレッスンを受け、足の位置やポーズを研究していたそうです。当時、日本を代表するバレリーナだった森下洋子さんの後援会にも入っていたのだとか！

### 松本かつぢとの親交

戦後間もない頃、大地書房より発行されていた少女雑誌『白鳥』の編集長・吉田時善に伴われて松本かつぢ宅を訪問した悦郎。それがかつぢとの初めての対面でした。
かつぢは悦郎の絵をたいそう気に入ってくれており、その後はしょっちゅう自宅を訪ねていくまでに親しくなりました。昭和 50 年に悦郎がパリへ滞在していた折には、かつぢが長男とともに訪ねてきたこともあったそうです。
かつぢのことは“かっちゃん先生”と呼んで親しんでおり、いろいろな場所へとお供しました。
昭和 61 年にかつぢが亡くなったあとは、毎年命日になると墓参りに行っていたようです。

主な参考文献：『鈴木悦郎　詩と音楽の童画家』（河出書房新社）、『松本かつぢ　昭和の可愛い！をつくったイラストレーター』（河出書房新社）

生誕 100 年記念展示「鈴木悦郎展」2023.12.6-2024.2.26